

Bulletion of Kagoshima  
Prefectural Archaeological Center

# From JOMON NO MORI

No. 17 CONTENTS

About human bones from the Jomon period excavated  
in Kagoshima Prefecture

Tatsumi Yubasakir

Introduction of excavated materials at  
the Hoshizako site, Kajiki-cho, Aira City (1)

Kagoshima Prefectural Archaeological Center

Some consideration about of sue ware in the Middle Ages  
in Kagoshima Prefecture

Uwatoko Sin

Characteristics of Distylium racemoum and  
excavated materials and folklor materials

Higashi Kazuyuki

Annual of Kagoshima Prefectural Archaeological Center of the  
5nd year in Reiwa.

Kagoshima Prefectural Archaeological Center  
October 2024

研究紀要・年報

# 縄文の森から

From JOMON NO MORI

第17号

鹿児島県出土の縄文時代該当の人骨について  
—出土遺跡や人骨の集成と概要—

湯場崎 辰巳

始良市加治木町干迫遺跡の出土資料紹介（1）

鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県出土中世須恵器の若干の検討～特に貯蔵具に着目して～

上床 真

イスノキの特長と出土資料および民俗資料例

東 和幸

令和5年度 年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2024. 12

研究紀要

年報

縄文の森から

第17号

二〇二四

鹿児島県立埋蔵文化財センター

# 『縄文の森から』第17号 目次

---

---

鹿児島県出土の縄文時代該当の人骨について—出土遺跡や人骨の集成と概要—

湯場崎 辰巳・・・・・・ 1

始良市加治木町干迫遺跡の出土資料紹介（1）

鹿児島県立埋蔵文化財センター・・・・・・ 23

鹿児島県出土中世須恵器の若干の検討～特に貯蔵具に着目して～

上床 真・・・・・・ 52

イスノキの特長と出土資料および民俗資料例

東 和幸・・・・・・ 63

令和5年度年報・・・・・・ 77

---

---



# イスノキの特長と出土資料および民俗資料例

東 和幸

Characteristics of *Distylium racemoum* and excavated materials and folklor materials

Higashi Kazuyuki

## 要旨

鹿児島県出水市六反ヶ丸遺跡で出土した弥生時代中期前半の弓がイスノキ製であったことから、イスノキの使用例を考古資料や民俗資料例などから抽出した。縄文時代以降、イスノキの特長を活かし、立ち木の状態から、加工して様々な道具をつくり、最後は燃料とし、燃えた後の灰まで余すことなく利用していることが判った。イスノキ製弓が実用なのか儀器なのか明らかに出来なかったが、古代には畿内を中心に全国でイスノキ製横櫛が出土しており、その重要性が問われる。また、イスノキが南島の特産品として知られる「赤木」の一部を占めているのではないかと推察した。

キーワード イスノキ 植物学的特長 出土資料 民俗資料 弓 古代の横櫛 赤木

## 1 はじめに

令和4（2022）年度に発掘調査された鹿児島県出水市六反ヶ丸遺跡では、標高約2.5mの地点で加工痕のある9mを超すイチガシの大木をはじめとして、自然木と共に木製品が出土した。その中には、弥生時代中期前半の黒髪式土器に伴うイスノキ製の弓や装飾付木製品などが出土しており、『六反ヶ丸遺跡4』に報告されている（公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター2024）。

本稿は、紙数の関係で報告書に反映することができなかった民俗事例に加え、出土資料にみられるイスノキの使用例について紹介することとする。

## 2 イスノキの植物学的特長

### (1) イスノキの性質と特長

イスノキはマンサク科イスノキ属 (*Hamamelidaceae Distylium* Sieb. et Zucc.) の常緑高木で、通常樹高10～15m、胸高直径40～50mである（牧野1982, 林1969 第1図）。林業試験場監修の『木材工業ハンドブック』（1982年 丸善）によるイスノキの性質は、「光沢あり、肌目精、比重0.89、加工難」とある。

堅いことは、①頑丈、②傷が付きにくい、③変形しにくい、④虫に食われにくい、⑤叩くと良い音がする、⑥朽ちにくい、⑦色艶が良い、などの利点があるが、⑦加工しにくい、⑧弾力性が少ない、⑨使えるまで時間を要する、などの欠点にもつながっている。また、化学的組成を含めイスノキの性質などが調べられている（平井1996）。これらの性質は生活で使用する際にも大きく関わっており、それを熟知した上で利用されたと考えられる。



562. イスノキ (牧新995) ※原図はカラー  
第1図 イスノキ図 (牧野1982)

### (2) イスノキの分布域

国内におけるイスノキの分布範囲は本州西南部から琉球の山地であり、暖地に産する樹木であることが分かる（林1969 第2図）。

鹿児島県内でも各地で、子どもの頃からイスノキに親しんでいる話を聞くことができる。湯本貴和氏は「屋久島の照葉樹林は下部平坦地ではタブノキ、斜面ではイスノキが、また上部ではスタジイが優先した林である」と紹介し、家屋や諸道具類をつくるのに、近くの林から必要な樹種を選択したことを指摘している（湯本2012）。

### (3)身近なイスノキ

イスノキは鹿児島県では「ユイノツ（柞木）」と呼ばれており、地名（南九州市川辺町田部田柞木、鹿児島市由須木町）や姓にもみられる。旧高山町の町木でもあり、日置市伊集院町の町名由来も同地に多く生えていたイス

#### 鹿児島県内における大木

- (1) 出水市立下水流小学校にはイスノキの大木があり、植物学会で注目されていたようである（『南日本新聞』昭和29年4月9日）。同校に電話で問い合わせしてみたが、イスノキの大木を確認することは出来なかった。
- (2) 曾於市大隅町恒吉の「長江のイスノキ」2本は、平成16年に市指定文化財（天然記念物）となっている。胸高幹周りは4.4mと3.2mである。曾於市では他に、財部町北俣上大峯、末吉町諏訪方椿、末吉町南之郷上高岡、大隅町恒吉麓長田神社などで、イスノキの大木が把握されている（曾於市教育委員会2019）。
- (3) 伊集院町恋之原の稲荷神社に、市指定保存樹としてのイスノキがある。
- (4) 薩摩川内市入来町浦之名山王諏訪神社境内の例は市指定重要文化財「天然記念物イスノキ」であり、定樹齢600年とある。元々は山王神社があり、17世紀中葉に諏訪神社が合祀されている。約10mの間隔をおいて2本が樹立している。
- (5) 大隅半島の稲尾岳や薩摩半島の金峰山にはイスノキの群落があることを、文化庁非常勤調査員の寺田仁志氏に教示いただいた。
- (6) 環境省は幹周囲300cm以上を巨木としており、鹿児島県には24本のイスノキ巨木が把握されていたが、大隅半島高野国有林で新たに14本が報告されている（鈴木・中園2010）。

### (4)イスノキの加工実験

六反ヶ丸遺跡出土の木製品を、鹿児島県工業技術センターのご厚意により、精密計測した上で3Dプリントしたものを参考に再現したのが写真1である。左から、樹脂による3Dコピー、出土時の復元色、製作時の復元色、右がイスノキによる再現品である。

再現に利用したのは、令和5年8月に阿久根市で伐採した直径5cmほどのイスノキであり、弓の復元に使用しない30cm程を切って木製品の再現用とした。まだ生木の状態であり、芯材もない細い木であったので、ノコギリでの切断は比較的容易であったが、縦割りにして厚さ1cm程に割くと、瞬く間に約15°の捻れが生じた。

なお、弓の再現については、示現流で使用する木刀と同様に、3～4年寝かせておかなければ使えないということで、復元製作は中断している。

## 3 イスノキの出土事例

管見に触れたイスノキの出土事例は700点近くにおよび、表1～3に示した。実態としては、さらに増えていると考えられる。また、鹿児島市郡山町柞ヶ丸遺跡などのように古墳時代の層を花粉分析した結果、イスノキ属もみられることから、当時はイスノキが茂っていた環境であったことがわかる（鹿児島市教育委員会2021）。今回は土壌分析結果までは把握していないが、遺跡周辺に自生もしくは意識してイスノキを植樹していたかどうかの判断基準ともなり重要である。

### (1)イスノキ製品の出土例

伊東隆夫氏と山田昌久氏は、2012年に全国で出土した木製品の樹種について網羅しており（伊藤・山田2012）、各植物を各時代の人々はどのように利用していたかを考える上で、基礎となる資料である。現時点で

ノキであると言われている。伊集院の「院」は中世における領域のことであるので、「いじゅう」が「イス」から変化したものと考えられる。鹿児島県ではイスノキは身近な植物であり、下記のような大木が知られている。



第2図 イスノキ分布図（林1969）



写真1 イスノキ製木製品の3Dコピー

の、イスノキの出土件数は691件であり、山形県、栃木県、和歌山県、愛媛県の4県を除く、全国の都道府県から出土している。

現状で把握できた資料を示したが、横櫛については奈良県で75点を提示したが、平城宮跡だけでも250点余りが出土していることから（和田2023）、日々新たな資料が発見されていることになる。ただし、全体的なイスノキ製品の出土傾向は変わらないと考えられ、本稿での分析等には大きな影響を与えることはないと推察される。

これまでの出土事例で明らかなことは、現在のところ縄文時代のイスノキ製品出土例は沖縄県以外にないこと、櫛以外ではイスノキの植生分布域と重なるような出土の仕方である。このことは、イスノキの利用は南の沖縄から広まったことが明らかであるとともに、イスノキ製の横櫛は人が意識的に全国に流通させたことが窺える。（註1）

九州の古代以前の木製品についてまとめた山口譲治氏による、イスノキ製品は下記のようなものがある。曲柄鋏身、紡錘車の紡輪と軸、漁具として鮑オコシやヤスおよび鉾、武具の木鏃と槍状製品、それに横櫛、容器、縦柄杓子、陽物の形代である（山口2012）。

弥生時代から古墳時代の木製鋏について、川口雅之氏は以下のように指摘している。「一般的な鋏身の樹種には、アカガシ亜属が選択されているが、曲柄平鋏Ⅱb類はイスノキの板目材を使用しており、両者の樹種、製材方法は異なる。」と言う（川口2008）。曲柄平鋏Ⅱ類は短い軸部と2か所の穿孔を有することを特徴とし、こ

#### イスノキの用途

##### 1 生活用具

###### (1) 衣類

ア 樹皮の内側に菌糸がはびこった暖皮状のもので、琴の袋をつくった例が知られる（内藤1964）。布をつくるのに、どれぐらいの量を集めたのか、あるいは叩く道具が必要だったのかなど、伝承者がいれば聞きたいところである。

イ 櫛としてはツゲ（黄楊）が知られるが、イスノキ製も折れにくく高級だったようで、「クシノキ」ともいう。古代においては、黄楊よりもイスノキが使われており、後述する。喜多つげ製作所社長によると、黄楊やイスノキ製の櫛は「四季に強い」とのことである。すなわち、高温にも低温にも、湿潤にも乾燥にも丈夫であるとのことである。

ウ 肝属郡ではイスノキの灰を紺染にしていた。

エ 林弥栄氏は綿打槌を挙げている（林1969）。

オ 出土例では紡錘車がある。

###### (2) 食生活用具

ア 鹿児島では、木灰で郷土菓子のアクマキをつくる時にユス灰が利用される。木綿袋で濾過したアク汁に米を一晩浸け、竹皮に包んで蒸すとできあがる。現在は黄粉や黒砂糖にまぶして食べるが、以前は保存が効くことから携帯用の食料としたとも言われている。イスノキの灰だけを集めるため、決められた竈などに他種の薪をくべないよう厳しく諫められたものである。

イ 餅を搗く臼や杵をつくった例が伊集院町、高山町、大根占町で報告されている（内藤1964）。

ウ 甕島の里村では、「イスノキからアクをとって茶碗の上塗薬とする」と報告されているが（内藤1962）、どのような効果があったのか追究する必要がある。

エ 林弥栄氏は樽や桶を挙げている、特に砂糖樽を指摘している（林1969）。

###### (3) 住居用具

のタイプ自体が南九州特有のものであるらしい。今後、調査事例が増えることによって、南島に源流が求められれば一層興味深い。台湾や中国大陆にも目を配る必要がある。

本稿を書く契機となった六反ヶ丸遺跡出土のイスノキ製弓については、横櫛とともに後述することとする。

#### 4 鹿児島県におけるイスノキの利用事例

本県を中心とするイスノキの利用例を下記にまとめた。県内でのイスノキの利用例について網羅したのは内藤喬氏であり、昭和39（1964）年に刊行された『鹿児島民俗植物記（遺稿）』から多くを引用した。また、元大工棟梁で90歳を超える南九州市川辺町在住の田中勝芳氏、薩摩弓師の桑幡道長氏、文化庁非常勤調査員の寺田仁志氏からは、特に多くのご教示を得た。

前述したような性質を応用して、幹、枝、葉、実などがそれぞれの季節で使われ、捨てるところがないほどイスノキは生活に密接な関わりをもっている。なお、「クシノキ」、「ヒョンノキ」とも呼ばれ、漢字で表すと、「蚊母樹」・「蚊子木」・「瓢樹」などがあり、生活に絡めた意味の漢字が使われていると考えられる。以下、生活における場面ごとに紹介する。

なお、記載順は福島県只見町の民俗資料分類例による（只見町史編さん委員会1992）。用途としてイスノキが使われにくかったことを示すために、利用例のない項目も残しておくこととする。

- ア 立ち木としては、生垣などに利用され、観賞用、境界用、目隠し、木陰用、防火、空気循環、土砂流出防止などの用途がある。特に丈夫なことから、台風対策用としても防風林として植栽されている。
- イ 床柱として、色や艶が好まれた。子孫に残す財産の一つでもある。大工棟梁であった田中勝芳氏によると、伐採して20～30年は山中に放置して「シロタ（辺材）」を腐らせてから使ったとのことである。
- ウ 歪みが少なく、傷が付きにくいいため、床材や敷居として使用されている。
- エ 家具として、加工しにくく重いものの、舟筆筥など衝撃に堪えられる必要があるものに利用されている。
- オ 陶製の戸車の軸にイスノキが使われていた（田中勝芳氏談）。
- カ 屋久島の民家の構造材には、シロアリが付きにくいイスノキも使われており、「こみ栓」と呼ばれる木片を部材の結合部に打ち込んで固定している（湯本2012）。この話については、田中勝芳氏にも確認していただいた。
- キ 甕島では新築の時、火事が起こらないようにイスの葉にシトギ（糞：神前に供える糯米やダゴ）を載せて来会者に振る舞ったとのことである（内藤1962）。
- ク 「たっぼん（薪）」としてカマドや風呂の燃料や明かりなどに利用される。高熱で火持ちがよいとのことである。桑幡道長氏の父元象氏は、「イスノキを薪に使う家は、分限者どん（ぶげんしゃ：富豪）。」と言う話をしていたという。煙があまり出なかったようである。

## 2 生産用具

### (1) 農耕用具

- ア 鎌や鍬の柄として使われている。出土品にもある。
- イ 脱穀用のメグイボ（唐竿）にイスノキの若木が使われている（水流1991）。

### (2) 山樵用具

- ア シバ（薪）などを両端に突き刺し、イノ（担いで）て運搬するオコ（担い棒）用として紹介されている（森田1991）。

### (3) 漁労用具

- ア 出土品にヤスやアワビオコシがある。
- イ 舟材の一部に使われている。

### (4) 狩猟用具

- ア 樹皮からトリモチを作ったことが知られている（林1969）。
- イ 出土品の弓が狩猟具から武器として用いられるようになったのは明らかである。イスノキ製の弓が実用的だったどうかは、今後の研究に委ねたい。また、木鏃も同様である。

### (5) 畜産用具

### (6) 養蚕用具

### (7) 染色用具

- ア 虫こぶを染料とすることによって、布を黒みがかった薄茶色や亜麻色に染められるとのこと。

### (8) 手工用具

- ア 九州陶磁文化館の徳永貞紹氏によると、「いすばい」を肥前系磁器の釉薬にしているとのことである（徳永氏談）。
- イ 小枝に産み付けて育ったヒモワタカイガラムシ雌成虫を乾燥させ、砕いた粉を集めて布に包み、竹細工の艶出しに使う。「いばた」と呼んでいたと記憶するが、鹿児島市竹振興センターに問い合わせると、販売元も製造中止になっており、現在は在庫分を使っているとのことである。

### (8) 諸職用具

- ア ドンジ（掛け矢）の本体に使われている（田中勝芳氏）。

## 3 交通・交易用具

### (1) 運搬用具

### (2) 旅行用具

### (3) 通信用具

### (4) 商業用具

### (5) 計算・計量用具

- ア 常に弾かれるソロバン珠として、芯に近い黒っぽい部分で使用されている。また、ソロバン枠に使用されており、「大隅算盤」として知られている。肝付町前田には大隅算盤製作所があり、材料のイスノキを求めて島根

県から来られたとのことである（近藤氏談）。

- (6) 看板・広告用具
- (7) 手形・貨幣用具

#### 4 社会生活用具

##### (1) 共有道具

ア 虫こぶ（虫癭）を硯の水入れにした例もある（内藤1964）。加世田では虫癭のことを、「タッポ」や「サッポ」と呼んでいた（内藤1964）。

##### (2) 防災・避難用具

##### (3) 家印・印判

##### (4) 武家用具

ア 示現流・自顕流で使用する樹皮を残したままの木刀・長木刀（ながぼくと）に利用されている。伐採してから2～3年以上のものでなければ、使えないとのことである。ただし、イスノキが手に入りにくいいため練習用としては、他の樹種を利用するとのことである。

また、立木や横木の方も他の樹種よりイスノキの方が反発力が少なく好まれる。イスノキの木刀でたたくけれども、折れることはないとのことである。硬い者同士であるが、細くて長い点に力を受け流す効果があると推定される。

イ 薩摩弓の関板に使われている。弾かれた弦は、関板を強く打ち付けるため、傷つきにくい素材が好まれる。また、弓道場に響く弦音と的中の音は、素材による音の違いと的中位置が観衆を魅了する。薩摩弓師の桑幡道長氏のところには先々代からのイスノキ材が保管されている。なお、イスノキの製材については、鋸歯の消耗が激しく好まれないとのことである。

##### (5) 戦時用具

#### 5 信仰・年中行事用具

- (1) 神体・偶像類
- (2) 神事・仏事用具
- (3) 奉納・祈願・縁起物類
- (4) 年中行事用具
- (5) 信仰関連用具

#### 6 芸能・娯楽用具

##### (1) 芸能用具・衣裳類

- ア 太鼓踊りの撥
- イ 棒踊りの棒

##### (2) 仮面

##### (3) 人形

##### (4) 楽器

ア 薩摩琵琶の撥として、叩くように弾いても頑丈である。

イ 沖縄や奄美では三線の棹として利用されている。

##### (5) 遊戯具

ア 子どもの頃、葉っぱを丸めてブーブー笛にしていた。

イ 虫が出ていった後の虫こぶを笛にする。その音色から「ひよんのき」とも呼ばれる。また、種子島ではその音がアオバズクの鳴き声に似ることから、ケシコノミ（ケシコはアオバズクの意）と呼んだ（寺田氏談）。志布志や霧島では「トッコの木」と呼んでいたとのことである（阿多利昭氏、東悦子氏教示）。

ウ 鹿児島で焼酎を飲みながら遊ぶ「ナンコンたま（珠）」に使われる。

エ 薩摩藩の伝統的な遊びである破魔投げの棒は、「裏コケ」が最良とのことである（内藤1964）。『広辞苑』「うらごけ【抹殺・梢殺】」には、「樹幹の太さが梢（こずえ）の方に行くに従って急に細くなることとある。

#### 7 人の一生用具

##### (1) 育児用具

##### (2) 成長の祝い用具



写真2 保管されたイスノキ材

## 5 若干の考察

以上、イスノキの植物学的特長とともに、出土資料および民俗資料の利用例をみてきた。各時代の人々がイスノキの特性を活かしながら、生活の中で利用してきたことが窺えた。しかも、立木の状態から、加工して様々な道具に利用し、最後は薪として使い、その灰までも利用し尽くしている。今後とも時代に合った使い方が出てきて、鹿児島島のイスノキや山林が見直されることを期待したい。

では、「弓」、「横櫛」、「赤木」の3つの項目について詳しくみていきたい。

### (1)イスノキ製弓

#### ア 六反ヶ丸遺跡（鹿児島県出水市）

第3図1～5の5点が出土している。完全な形のものはないが、1m近い例や先端の弦をつがえる部分が残っており、全形を推定復元することは可能である。1～3は樋が入る丸木弓であり、4は平弓である。5の弓弦は片側を加工していることから、輪っかにした弦を掛けていたことが分かり、2と4は弦を縛っていたことが窺える。

5点ともAMS法で年代測定されており、541CalBC～204CalBCに収まる。共伴した土器は熊本市に標式遺跡のある黒髪式土器であり、弥生時代中期前半に位置づけられる。

#### イ 下郡遺跡群（大分県大分市）

報告書では棒状製品とあるが、弓の可能性もあるとのことである（註2）。下城式土器に伴うもので弥生時代前期末に該当する（大分市教育委員会1992）。機会があれば実見したい。

#### ウ 八日市地方遺跡（石川県小松市）

八日市地方（ようかいちじかた）遺跡のイスノキ製品については、刺突具として報告されている（註3）。平面図には表現されていないが、断面図をみるとわずかに平坦な凹みのようにも見える。幅が30mm弱であることと、弥生時代中期前半に位置づけられることなど、六反ヶ丸遺跡出土弓3との共通性がある。弓を転用したことも考えられるので、機会があれば実見して確認したい。

#### エ 小結

六反ヶ丸遺跡でイスノキ製弓の形状が明らかになったことで、これまで棒状や刺突具などとして報告されてきた破片の一部についても、再確認することによって弓の類例が増えることを期待したい。六反ヶ丸遺跡以外の出土遺物を実見していないので、断定することは出来ないものの、共通点は窺える。

最大径3cm前後に加工されており、弥生時代前期末～中期前半に位置づけられることが共通する。樋は両端の少なくとも12～27cmほどには入らないことから、下郡遺跡群例については、樋が施されていないのは明らかである。また、弓が実用的だったのか、それとも儀器だったのかも、イスノキで復元して実

験していないので、課題として残っている。

六反ヶ丸遺跡出土弓について指導して下さった岡安光彦氏によると、「定型化した原初的の和弓が日本列島に登場し、次第に普及し始める直前の段階において、九州南部でこうした弓が特殊かつ特徴的な素材を用いて製作されたことは興味深い。保存状態の良好さとともに、日本列島における弓の発達を考察する上で、極めて貴重な資料であることは言うを待たない。」と評価している（岡安2023）。

弥生時代中期は北部九州に起源のある弥生文化が全国に定着する時期であり、各地方でクニがつくられるようになる。領域を明確にするには争いが起き武器を必要とし、人々を掌握するには祭りに使う儀式も必要であったと考えられる。重くて「引けない（強い）弓」に驚きを求めた可能性もある。

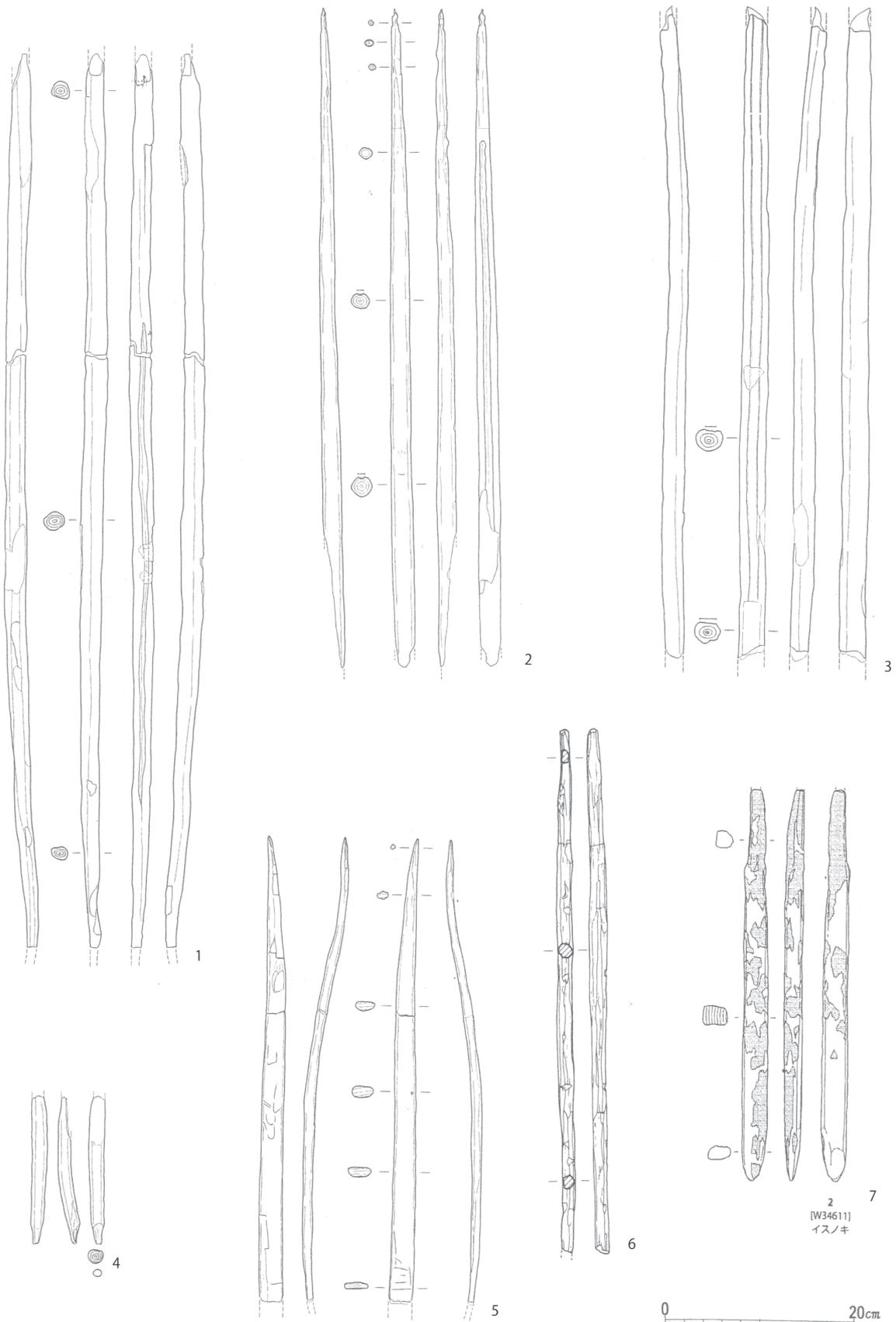
### (2)古代の櫛

イスノキが古代における国家中枢部で使われていることは、南島や南九州にとっても重要なことである。和田一之輔氏は「平安時代に編纂された『延喜式（えんぎしき）』によれば、櫛職人2名が年間366枚の櫛を内蔵寮（くらりょう）に納めたようです。おもな内訳は天皇に200枚、皇后に100枚、皇太子に60枚とあり、そのすべてが「由志木（ゆすのき）」つまりイスノキという樹木を素材とすることが定められています。」「イスノキもツゲも南九州でよく生育する樹木で、緻密で堅く適度な弾力性もあるので、櫛の製作に適しているのです。」「平城宮跡からは250枚余りの横櫛が出土しており、実にその9割がイスノキ製です。文献資料と出土資料の実態とが見事に合致します。」と述べており（和田2023）、イスノキ材が植生分布の濃い南九州から調達されたことを想定している。

古代の史・資料が少なく遠く離れた南九州地域にとって、平城京および平安京との関わりは重要なことであり、「隼人」と呼ばれていた人々（682～793年）の一面を明らかにする契機にもなり得る。ましてや、天皇家にイスノキ製横櫛を納めていたことや、全国で使用されていることを考えると、追究すべき課題は多い。

### (3)「赤木」とイスノキ

古代の都城（藤原京・平城京）における原材料の調達から消費を解明するためにイスノキ製の横櫛に注目した木沢直子氏は、正倉院文書や『延喜式』に記された「由志木」がイスノキであると指摘した（木沢2015）。沖繩には、イスノキを表す言葉として、ユシ（永良部/沖繩/伊是名/西表）・ユシキ（西表）・ユシギ（永良部・沖繩・久米）・ユシギギ（沖繩安田）・ユシンギ（沖繩諸志）の方言が残っている（天野1989）。平井信二氏はイスノキの語源は不明としながら、「櫛を作ることからクシノキ→ユシノキ→ユスノキ→イスノキ」と変化したことを示唆している（平井1996）。木沢氏は「由志木」が「軸端」に利用されていることにも触れており、軸の用材として南島の「赤木」が思い浮かぶ。



第3図 イスノキ製弓

1~5 六反ヶ丸遺跡  
 6 下郡遺跡群  
 7 八日市地方遺跡

南島の赤木については山里純一氏の研究があり、その中で、満久崇磨氏が「赤木梳二百七十」の赤木をイスノキと推定していることを記している（山里1995）。

なお、正倉院宝物の木材についても調べられており、次の5点がイスノキおよび可能性があるものである（成瀬2012）。「紫檀木画狭軾」の脚と脚座、「榧双六局」の天板中央、軸端がイスノキと同定され、「楓蘇芳染螺鈿槽琵琶」の鹿頸、「檳榔木画箱」の脚が可能性のあるものとされる。紫檀、螺鈿の素材である夜光貝、牛車に繊維を葺いていたという檳榔は南島以南に関わりがあり、軸端も「赤木」が使用されると指摘されており、イスノキ材が使われた道具には南島以南の素材が同居している。

天野鉄夫氏は、「イスノキは紫檀黒檀の模擬材等として、九州紫檀の名がある」と指摘している（天野1989）。「赤木」は沖縄のアカギであるとともに、紫檀やイスノキなどのように南方に産する重くて堅い材質の木を総称している可能性も考えられる。このことについては、改めて追究する必要がある。

## 6 おわりに

六反ヶ丸遺跡出土のイスノキ製品を契機として、イスノキに興味をもちはじめたところ、最初の頃は民俗事例の収集ばかりでなく、イスノキの大木巡りも楽しくなった。しかし、木沢論文や山里論文にたどり着いた時には、イスノキの重要性を全く理解していない自分に気づいた。特に古代においては「赤木」との関わりもあり、朝廷周辺における横櫛として重宝されたことや（註4）、正倉院宝物にも使われていたことを知り、「隼人」との関わりを含め課題が多いことを実感した。

また、出土品については状態の良い資料が発掘されると、報告時点で想定されていた用途の評価が変わってくることもある。なるべく、出土資料を実見し、再実測することによって再評価していくことが求められる。

さらに、民俗資料についても、文献や聞き書きの二次資料が多く、実見していないものばかりである。宿題ばかりが残ったが、本稿を出発点として今後ともイスノキに興味をもっていきたい。ご批判、ご教示いただければ幸いである。

最後になりましたが、話を伺った喜多つげ製作所社長、桑幡道長氏、近藤津代志氏、田中勝芳氏、坪根伸也氏、寺田仁志氏、徳永貞紹氏、鹿児島市竹振興センター、示現流兵法所、都城市歴史館前庭で示現流の稽古に励んでおられたみなさん方に感謝申し上げます。また、鹿児島民具学会（2024/9/08）の参加者および服部芳明氏からは、有益な情報をいただきました。

## 参考文献等

天野鉄夫 1989 『図鑑 琉球列島有用樹木誌』 沖縄出版  
伊東隆夫・山田昌久 編 2012 『木の考古学』 海青社  
伊藤正人 2023 「箸台ノート」『物質文化』103 物質文

化研究会

岡安光彦 2024 「六反ヶ丸遺跡出土弓について」『六反ヶ丸遺跡4 ―E地点―』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（55）公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター  
川口雅之 2008 「南部九州 特集―弥生・古墳時代の木製農耕具―」『季刊考古学』第104号 雄山閣  
木沢直子 2015 「奈良時代における木材の調達と加工 ～遺跡出土イスノキ材と正倉院にみられる「由志木」」『古代学』7 奈良女子大学  
鈴木英治・中園遼平 2010 「鹿児島県の巨木 ―特に大隅半島高野国有林で新たに発見された巨木群について―」『Nature Kagoshima』Vol.36 鹿児島県自然環境保全協会  
水流郁郎 1991 「メグイボ 嫁を泣かせた四人打ち」『かごしまの民具 鹿児島民具博物誌』 慶友社  
内藤喬 1964 『鹿児島民俗植物記（遺稿）』 鹿児島民俗植物記刊行会 青潮社  
成瀬正和 2012 「32章 正倉院宝物の木材樹種同定・竹材調査」『木の考古学』 海青社  
林弥栄 1969 『有用樹木図説（林木編）』 誠文堂新光社  
平井信二 1996 『木の大本科』 朝倉書店  
牧野富太郎 1982 『原色牧野植物大圖鑑』 北隆館  
森田清美 1991 「オコ・サシ・イネギ・シンボウ 小回りがきく担い棒」『かごしまの民具 鹿児島民具博物誌』 慶友社  
山口譲治 2012 「25章 九州・沖縄(1) ―古代以前―」『木の考古学』 海青社  
山里純一 1995 「南島赤木の貢進・交易」『西海と南島の生活・文化古代王権と交流8』 名著出版  
湯本貴和 2012 「7章 木材利用の民俗植物学―昭和30年代以前の屋久島・宮之浦集落を例として―」『木の考古学』 海青社  
和田一之輔「櫛の話」「なぶんけんブログ」奈良文化財研究所掲載日(2023年6月1日09:00)  
大分市教育委員会 1992 『下郡遺跡群大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う発掘調査概報(3)』 鹿児島市教育委員会 2021 『六反ヶ丸遺跡2』鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(89)  
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 2024 『六反ヶ丸遺跡4』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(55)  
曾於市 教育委員会 2019 『曾於市の巨木・古木・名木』只見町史編さん委員会 1992 『図説会津只見の民具』只見町史資料集第1集  
『南日本新聞データ』鹿児島県立図書館で検索  
『全国遺跡報告総覧』島根大学附属図書館 奈良文化財研究所  
註1 箸台(耳皿)も同様の動きがみられる(伊藤2023)。  
註2 坪根伸也氏の教示による。  
註3 吉田広氏、下濱貴子氏、横幕真氏の教示による。  
註4 喜多つげ製作所社長によると、「櫛は神に捧げるものであり、猫が爪を研いだ素材は使えない。」とのことである。「神=天皇」の一端を伝えている可能性もある。

表1 イスノキ製品出土例(1)

都道府県	遺跡名	器種細分名1	点数	時代区分
北海道	K39遺跡	横櫛	1	樺文中期～後期
北海道	美々8遺跡	横櫛	4	樺文～アイヌII
北海道	美々8遺跡	横櫛	1	アイヌII
青森	倉越(2)遺跡	横櫛	1	平安
青森	無(8)遺跡	横櫛	1	江戸後半以降
岩手	柳之御所跡第28次	横櫛	1	鎌倉
岩手	柳之御所跡第21次	横櫛	2	鎌倉
岩手	柳之御所跡第52次	横櫛	1	鎌倉
岩手	志羅山遺跡	横櫛	1	鎌倉
岩手	下町遺跡	横櫛	1	江戸後半～明治
宮城	市川橋遺跡	横櫛	2	古墳末期～平安初期
宮城	下飯田遺跡	横櫛	1	古墳末期～平安初期
宮城	市川橋遺跡	横櫛	8	古墳末期～平安
宮城	下飯田遺跡	横櫛	2	鎌倉～江戸初期
宮城	中在家南遺跡	横櫛	2	鎌倉～江戸初期
宮城	中田南遺跡	横櫛	1	室町前半
秋田	中谷地遺跡	横櫛	1	古墳末期～平安初期
秋田	厨川谷地遺跡	横櫛	4	平安
秋田	北遺跡	横櫛	2	鎌倉
秋田	観音寺廃寺跡	横櫛	4	鎌倉
福島	御山千軒遺跡	横櫛	1	古墳末期～平安初期
福島	中ノ内遺跡	横櫛	1	平安
福島	久世原館・番匠地遺跡	横櫛	2	中世
福島	峯崎遺跡	横櫛	1	江戸
茨城	茨城遺跡	横櫛	1	平安初期以前
茨城	茨城遺跡	横櫛	1	戦国～江戸初期
茨城	駒形地区桑里遺跡	横櫛	1	江戸初期以降
群馬	一本杉山遺跡	横櫛	1	不明
埼玉	下田町遺跡II	横櫛	1	古墳末期～平安
埼玉	前田字六反畑第1遺跡	横櫛	2	平安
埼玉	大久保山VI	横櫛	1	鎌倉～室町前半
千葉	西根遺跡	横櫛	1	奈良～平安
千葉	市原桑里制遺跡	横櫛	1	不明
東京	下宅部遺跡	横櫛	2	古墳末期～平安
東京	汐留遺跡III	横櫛	2	戦国～江戸後半
東京	九段南一丁目遺跡	横櫛	1	戦国～江戸初期
東京	諏訪町遺跡	横櫛	1	戦国～江戸後半
東京	溜池遺跡	横櫛	4	戦国～江戸後半
東京	千駄ヶ谷五丁目遺跡	横櫛	3	戦国～江戸後半
東京	千駄ヶ谷五丁目遺跡2次調査	横櫛	3	戦国～江戸後半
東京	丸の内一丁目遺跡	横櫛	1	戦国～江戸後半
東京	本郷元町IV	横櫛	6	戦国～江戸後半
東京	尾張瀬上屋敷跡遺跡X	横櫛	1	戦国～江戸後半
東京	細工町遺跡	横櫛	6	江戸後半
東京	千駄ヶ谷五丁目遺跡	横櫛	9	江戸後半
東京	日影町III	横櫛	1	江戸後半
東京	坂町遺跡	横櫛	8	江戸後半
東京	行五寺跡	横櫛	1	江戸後半
東京	四谷二丁目遺跡II	横櫛	2	江戸後半～明治
神奈川	蘆屋敷遺跡	横櫛	1	鎌倉～室町前半
神奈川	千葉地東遺跡	横櫛	2	鎌倉～室町前半
神奈川	千葉地東遺跡	横櫛	1	鎌倉～江戸初期
神奈川	千葉地東遺跡	横櫛	1	室町前半
神奈川	池子遺跡群VI	横櫛	1	戦国～江戸後半
神奈川	池子遺跡群VII	横櫛	1	戦国～江戸後半
新潟	馬越遺跡	横櫛	1	古墳末期～平安初期

都道府県	遺跡名	器種細分名1	点数	時代区分
新潟	用言寺遺跡	横櫛	1	鎌倉
新潟	八反田遺跡	横櫛	1	鎌倉～室町前半
新潟	仲田遺跡	横櫛	6	鎌倉～室町前半
新潟	住吉遺跡	横櫛	2	鎌倉～室町前半
新潟	津渡遺跡・堀下遺跡	横櫛	1	鎌倉～室町前半
新潟	寺前遺跡	横櫛	4	鎌倉～室町前半
新潟	山屋遺跡群(天王前遺跡)	横櫛	1	鎌倉～江戸初期
新潟	築先遺跡	横櫛	1	室町前半～江戸後半
新潟	窪田遺跡	横櫛	1	戦国～江戸後半
富山	梅原加賀坊遺跡	横櫛	1	鎌倉～室町前半
富山	五社遺跡	横櫛	3	鎌倉～室町前半
富山	江上B遺跡	横櫛	1	鎌倉～室町前半
富山	下老子笹川遺跡	横櫛	1	鎌倉～江戸後半
富山	五社遺跡	横櫛	2	室町前半
富山	田原遺跡	横櫛	1	室町前半～江戸初期
富山	梅原胡摩堂遺跡	横櫛	2	戦国以降
富山	中名V・VI遺跡	横櫛	1	戦国～江戸初期
富山	梅原胡摩堂遺跡	横櫛	1	戦国～江戸後半
富山	五社遺跡	横櫛	1	江戸後半
石川	指江B遺跡	横櫛	1	古墳中期～平安
石川	畠田ナベタ・畠田D遺跡	横櫛	3	古墳末期～平安
石川	藤江C遺跡	横櫛	1	古墳末期～平安
石川	畠田遺跡・畠田大徳川遺跡・畠田・寺中	横櫛	1	古墳末期～平安初期
石川	漆町遺跡	横櫛	5	平安
石川	畠田C遺跡	横櫛	2	平安
石川	畠田ナベタ・畠田D遺跡	横櫛	2	平安
石川	時国古屋敷遺跡	横櫛	1	平安
石川	上町カイタ遺跡	横櫛	1	平安
石川	漆町遺跡	横櫛	1	鎌倉
石川	大町縄手遺跡	横櫛	1	鎌倉
石川	美保奈比古神社前遺跡	横櫛	1	鎌倉
石川	大町縄手遺跡	横櫛	1	室町前半～江戸初期
石川	久昌寺遺跡	横櫛	2	戦国～江戸後半
石川	藤江C遺跡	横櫛	1	江戸後半
石川	本町一丁目遺跡	横櫛	1	江戸後半
福井	坂井兵庫地区遺跡群	横櫛	1	古墳末期～平安
福井	越前朝倉氏遺跡	横櫛	23	戦国～江戸初期
山梨	大坪遺跡	横櫛	6	古墳末期～平安
山梨	甲府城下町遺跡(日向町遺跡第2地点)	横櫛	1	江戸後半
山梨	甲府城下町遺跡(日向町遺跡第2地点)	横櫛	1	江戸後半
長野	社宮寺遺跡	横櫛	2	古墳末期～平安初期
長野	屋代遺跡群	横櫛	6	古墳末期～平安
長野	更地築里遺跡	横櫛	2	古墳末期～平安
長野	社宮寺遺跡	横櫛	1	鎌倉～江戸初期
長野	松代城下町跡	横櫛	1	戦国～江戸後半
長野	松代城下町跡	横櫛	1	戦国～江戸初期
静岡	恒武西宮・西浦遺跡	横櫛	2	古墳末期～平安初期
静岡	曲金北遺跡	横櫛	1	古墳末期～平安初期
静岡	川合遺跡	横櫛	1	古墳末期～平安初期
静岡	内荒遺跡	横櫛	2	古墳末期～平安初期
静岡	上土遺跡	横櫛	1	古墳末期～平安初期
静岡	岳美遺跡	横櫛	1	古墳末期～平安初期
静岡	土橋遺跡	横櫛	1	古墳～鎌倉
静岡	瀬名遺跡	横櫛	1	奈良～平安
静岡	箱根田遺跡	横櫛	2	奈良末～平安初期
静岡	神明原・元宮川遺跡	横櫛	1	平安

表2 イスノキ製品出土例(2)

都道府県	遺跡名	器種細分名1	点数	時代区分
静岡	池ヶ谷遺跡	横櫛	3	平安
静岡	林光寺遺跡	横櫛	1	鎌倉
静岡	瀬名川遺跡	横櫛	2	鎌倉
静岡	元島遺跡	横櫛	2	室町~戦国
静岡	上土遺跡	横櫛	1	中世
静岡	中島西原田	横櫛	7	中世~近世
静岡	神明原・元宮川遺跡	横櫛	3	一
愛知	下津北山遺跡	横櫛	1	鎌倉
愛知	清洲城下町遺跡	横櫛	1	戦国~江戸初期
愛知	大脇城遺跡	横櫛	2	戦国~江戸初期
三重	形垣内遺跡	横櫛	1	古墳末期~平安初期
滋賀	草津川御倉・北萱	横櫛	1	弥生~室町前半
滋賀	斗西遺跡	横櫛	2	古墳末期~平安初期
岐阜	飛騨市野内遺跡C地区	横櫛	1	古代
京都	平安京左京七条一坊十三町	横櫛	2	古墳末期~平安初期
京都	大覚寺御所跡	横櫛	2	古墳末期~平安初期
大阪	上町東遺跡	横櫛	14	中世前半
大阪	瓜生堂遺跡	横櫛	1	中世後半
大阪	瓜生堂遺跡	横櫛	1	中世
大阪	瓜生堂遺跡	横櫛	1	中世以降
大阪	難波宮跡	横櫛	2	江戸
兵庫	御藏遺跡第14-09次	横櫛	1	古墳末期~平安初期
兵庫	小大丸遺跡	横櫛	1	古墳末期~平安
兵庫	上脇遺跡II	横櫛	1	鎌倉
兵庫	藤田・ノノ谷口遺跡	横櫛	1	鎌倉~室町前半
兵庫	入佐川遺跡	横櫛	1	鎌倉~戦国
奈良	有岡城跡・伊丹郷町III	横櫛	1	江戸
奈良	藤原宮跡	横櫛	4	古墳末期~平安初期
奈良	平城宮跡	横櫛	36	古墳末期~平安初期
奈良	平城京左京二条二坊・三条二坊	横櫛	3	古墳末期~平安初期
奈良	平城京左京三条一坊七坪	横櫛	1	古墳末期~平安初期
奈良	平城京左京七条一坊十五・十六坪	横櫛	2	古墳末期~平安初期
奈良	平城京左京八条一坊三・六坪	横櫛	1	古墳末期~平安初期
奈良	平城京左京八条三坊	横櫛	1	古墳末期~平安初期
奈良	平城京左京九条三坊十坪	横櫛	5	古墳末期~平安初期
奈良	平城京左京八条一坊十三・十四坪	横櫛	13	古墳末期~平安初期
奈良	西隆寺	横櫛	1	古墳末期~平安初期
奈良	東竹田遺跡	横櫛	1	古墳末期~平安初期
奈良	布留遺跡	横櫛	2	古墳末期~平安
奈良	法隆寺	横櫛	1	平安
奈良	平城宮跡	横櫛	1	平安
奈良	養尾遺跡	横櫛	1	平安
奈良	東大寺旧境内	横櫛	1	鎌倉
奈良	養尾遺跡	横櫛	1	鎌倉
鳥取	福岡遺跡	横櫛	2	平安以降
岡山	鹿田遺跡2次	横櫛	1	古墳末期~平安初期
岡山	鹿田遺跡1次	横櫛	2	平安
岡山	百間川原尾島遺跡5	横櫛	1	平安
岡山	百間川米田遺跡4	横櫛	1	鎌倉
岡山	百間川米田遺跡4	横櫛	1	鎌倉~室町
岡山	百間川原尾島遺跡2	横櫛	1	室町前半
岡山	津寺遺跡4中屋調査区	横櫛	1	中~近世
岡山	津寺遺跡4中屋調査区	横櫛	1	中世~近世
広島	草戸千軒町遺跡	横櫛	2	鎌倉
山口	萩城跡(外堀地区)I	横櫛	2	江戸

都道府県	遺跡名	器種細分名1	点数	時代区分
徳島	黒谷川宮ノ前遺跡	横櫛	2	平安
香川	下川津遺跡	横櫛	3	古墳末期~平安初期
香川	下川津遺跡	横櫛	1	古墳末期~平安初期以降
香川	前田東・中村遺跡	横櫛	2	平安~鎌倉
香川	下川津遺跡	横櫛	6	平安~鎌倉
香川	下川津遺跡	横櫛	1	不明
高知	西鶴地遺跡	横櫛	3	古墳末期~平安
福岡	御笠川南条坊遺跡	横櫛	1	鎌倉
福岡	金山遺跡VI区	横櫛	1	弥生後期~古墳初頭
福岡	那珂河休遺跡7次	横櫛	1	古墳中期~後期
福岡	井上薬師堂遺跡	横櫛	4	古墳末期~平安初期
福岡	石田遺跡I区	横櫛	1	奈良~平安
福岡	寺田遺跡	横櫛	1	平安
福岡	金山遺跡I区	横櫛	1	平安
福岡	小倉城跡2	横櫛	1	戦国~江戸初期
福岡	小倉城跡2	横櫛	1	戦国~江戸後半
福岡	宗玄寺跡	横櫛	4	戦国~江戸後半
福岡	宗玄寺跡	横櫛	2	江戸後半
福岡	石田遺跡(区名なし)	横櫛	3	不明
熊本	柳町遺跡II	横櫛	5	古墳末期~平安初期
熊本	柳町遺跡I	横櫛	2	奈良末期~平安前期
熊本	柳町遺跡I	横櫛	1	奈良末期~平安前期
宮崎	馬渡遺跡	横櫛	1	鎌倉~戦国
宮崎	都城市府六遺跡	横櫛	1	近世
鹿児島	小倉畑遺跡	横櫛	2	古墳末期~平安
鹿児島	寿国寺跡	横櫛	1	近世
新潟	上越市下割遺跡	横櫛	1	中世~近世
神奈川	千葉地裏遺跡	横櫛	1	鎌倉~江戸初期
福岡	湯崎遺跡	こらがい	1	古墳前期
東京	溜池遺跡	こらがい	1	戦国~江戸後半
福岡	福岡市今福五郎江遺跡	簪	1	弥生時代後期~終末
東京	菅谷遺跡	簪	1	弥生時代後期
佐賀	土生遺跡12次調査	紡輪	1	弥生中期
福岡	福岡市今福五郎江遺跡	紡輪車2	2	弥生時代後期~終末
福岡	金山遺跡V区	紡輪	1	弥生後期~古墳初頭
福岡	金山遺跡V区	紡輪・軸	1	弥生後期~古墳初頭
福岡	北九州市金山遺跡	紡輪車	1	弥生時代末~古墳時代初
千葉	西原遺跡II	紡輪	1	古墳前期
鹿児島	京田遺跡	紡輪	1	古代~平安
福岡	北九州市長野小西田遺跡	掘り棒	1	弥生時代中期~後期
宮崎	坂元A遺跡	鋤組合せ	1	弥生中期
佐賀	菜畑遺跡	曲柄鍬身	1	弥生中期
福岡	長野小西田遺跡2	直柄鍬身	1	弥生中期後半~後期
鹿児島	南さつま市金峰町中津野遺跡	鍬鋤	1	弥生時代
福岡	金山遺跡VI区	直柄鍬身	1	弥生後期~古墳初頭
鹿児島	京田遺跡	組合せ鍬身	2	弥生後期~平安
福岡	尾徳遺跡群VI	直柄鍬身	1	弥生後期~後期
福岡	拾六町ソイジ遺跡	直柄鍬身	6	古墳中期~後期
鹿児島	南さつま市金峰町南下遺跡	曲柄二又鍬	1	古墳時代
大分	下郡遺跡群	棒段有り弓?	?	弥生早~前期
鹿児島	出水市六区ヶ丸遺跡	弓	5	弥生時代中期
石川	小松市八日市地方遺跡	刺突具・弓?	1	弥生時代中期
鹿児島	出水市六区ヶ丸遺跡	木製品(装飾)	1	弥生時代中期
福岡	三筑遺跡	武器形	1	古墳中期~後期
奈良	布留遺跡	刀 把	1	古墳前期

表3 イスノキ製品出土例(3)

都道府県	遺跡名	器種細分名1	点数	時代区分
奈良	布原遺跡	刀 把	1	古墳前期～後期
佐賀	菜畑遺跡	ヤス	1	弥生早・前期
長崎	里田原遺跡	ヤス	1	弥生中期
福岡	三筑遺跡	ヤス?	2	弥生早・前期
福岡	漂納遺跡	銚	1	弥生早・前期
福岡	比恵遺跡	木鏃	2	弥生早・前期
佐賀	菜畑遺跡	木鏃	1	弥生早・前期
福岡	福岡市兵庫遺跡	木鏃	1	弥生時代前期～中期初
福岡	比恵遺跡	木鏃	1	弥生中期
福岡	那珂河内遺跡7次	木鏃	1	古墳初頭～前期
福岡	拾六町ツイジ遺跡	木鏃	8	古墳中期～後期
福岡	拾六町ツイジ遺跡2	根狭み	2	古墳中期～後期
福岡	長野小西田遺跡	根狭み製品	1	弥生中期～後期
福岡	拾六町ツイジ遺跡	刺突具	3	弥生早・前期
福岡	里田原遺跡	刺突具	3	弥生中期
鹿児島	出水市六反ヶ丸遺跡	刺突具	2	弥生時代中期
福岡	福岡市今宿五郎江遺跡	刺突具	2	弥生時代中期
福岡	福岡市久保園遺跡	円盤連結木製品	1	-
奈良	四分遺跡	竪柱	1	弥生後期～古墳初頭
佐賀	菜畑遺跡	埴物	1	弥生早・前期
東京	飯訪町遺跡	埴物	1	戦国～江戸後半
佐賀	梅白遺跡	縦柄杓子	1	弥生中期
奈良	平城京京二条二坊十六坪	縦柄杓子	1	古墳末期～平安初期
三重	津市窪田大垣内遺跡	杓	1	-
岡山	津島遺跡4	鍬 編み具	1	弥生後期～古墳初頭
兵庫	川除・藤ノ木遺跡	鍬 編み具	1	平安
佐賀	菜畑遺跡	埴物形?	1	弥生早・前期
熊本	智勢遺跡20次	埴物形	1	古墳末期～平安初期
福岡	南家坊遺跡	下駄	1	平安～鎌倉
福岡	御堂川南家坊遺跡	下駄	1	鎌倉
三重	八日市市八日市市官所跡	三味線撥	1	-
兵庫	川除・藤ノ木遺跡	横紐	1	鎌倉
福岡	博多遺跡群	構造船	4	戦国～江戸初期
大阪	五反島遺跡	横木 護岸	2	奈良～室町
長崎	諏早市開遺跡	柱材	1	中世
宮崎	都城市天神遺跡	柱材	2	江戸時代 18世紀代
鳥取	益田市沖手遺跡	柱材	1	-
福岡	福岡市三宅原寺	柱材	1	-
福岡	福岡市吉塚祝遺跡	柱材	1	-
沖縄	前原遺跡	板 孔段無し	1	縄文後・晩期
福岡	湯納遺跡	板 段有り	1	古墳前期
奈良	平城京左京二条二坊・三条二坊	板 孔段無し	1	古墳末期～平安初期
高崎	西鴨地遺跡	板 孔段無し	1	古墳末期～平安
長崎	松浦市鷹島海底遺跡	板材?	1	中世
佐賀	菜畑遺跡	棒 段有り	1	弥生早・前期
福岡	比恵遺跡	儀 孔段無し	1	弥生後期～古墳初頭
福岡	力ヶ遺跡	棒 孔段無し	1	弥生後期～古墳初頭
沖縄	前原遺跡	杭	1	縄文後・晩期
福岡	四箇遺跡	杭	2	弥生早・前期
福岡	笠拔遺跡	杭	1	弥生中期
福岡	板付遺跡	杭	1	弥生時代
福岡	南さつま市金峰町中津野遺跡	杭 3	3	弥生中期
福岡	小郡正尻遺跡	杭	1	古墳中期～後期
福岡	四箇周辺遺跡	杭	1	古墳中期～後期
鹿児島	南さつま市金峰町中津野遺跡	製品	1	弥生時代
長崎	松浦市鷹島海底遺跡	丸太材?	1	中世

都道府県	遺跡名	器種細分名1	点数	時代区分
鹿児島	南さつま市金峰町中津野遺跡	部材	1	弥生時代
沖縄	前原遺跡	分割材	2	縄文後・晩期
長野	歴代遺跡群	削りかす	1	古墳末期～平安
沖縄	前原遺跡	残材	1	縄文後・晩期
福岡	高野遺跡(井戸跡周辺)	残材	1	鎌倉
鹿児島	南さつま市金峰町中津野遺跡	木片 4	4	弥生時代
熊本	芦北町花岡木崎遺跡	果実 5	5	古代～中世
佐賀	上峰町	埋没林	1	阿蘇4 火砕流下
石川	柳田畧屋	木材化石	8	中新世前期
新潟	曾根遺跡	その他・不明	3	古墳末期～平安初期
福岡	高野遺跡(井戸跡周辺)	その他・不明	1	鎌倉
長崎	伊木力遺跡	-	2	縄文前期
沖縄	伊礼原O遺跡	-	2	縄文前期
福岡	四箇遺跡	-	1	弥生早・前期
福岡	菜畑遺跡	-	1	弥生早・前期
佐賀	津吉遺跡群	-	1	弥生早・前期
長崎	津吉遺跡群	-	1	弥生早・前期
鳥取	西川津遺跡	-	11	弥生早・前期～中期
福岡	田村遺跡	-	1	弥生中期
福岡	中伏遺跡	-	1	弥生中期
福岡	長野小西田遺跡2	-	1	弥生後期～古墳初頭
福岡	湯納遺跡	-	1	弥生後期～古墳初頭
福岡	力ヶ遺跡	-	1	弥生後期～古墳初頭
福岡	前原北遺跡	-	1	弥生後期～古墳初頭
福岡	那珂河内遺跡7次	-	1	古墳初頭～前期
福岡	四箇周辺遺跡	-	2	古墳前期
福岡	拾六町ツイジ遺跡	-	1	古墳中期～後期
宮城	市川橋遺跡	-	4	古墳末期～平安
福岡	下月隈O遺跡	-	32	古墳末期～平安初期
福岡	久世原館・番匠地遺跡	-	1	古墳末期～平安初期
神奈川	真田・北金目遺跡	-	1	古墳末期～平安初期
奈良	坂原宮跡	-	1	古墳末期～平安初期
奈良	藤原宮跡	-	1	古墳末期～平安初期
香川	川北遺跡	-	1	古墳末期～平安初期
福岡	東那珂遺跡	-	4	古墳末期～平安初期
福岡	片伊田遺跡	-	1	古墳末期～平安初期
沖縄	喜友名前原第二遺跡	-	7	グスク
兵庫	二葉町遺跡第8-3次	-	3	鎌倉
福岡	門田遺跡	-	1	鎌倉
福岡	御笠川南家坊遺跡	-	1	鎌倉
佐賀	久米遺跡	-	1	鎌倉
広島	草戸千軒町遺跡	-	4	鎌倉～室町
山口	堂遺跡	-	1	鎌倉～室町
宮崎	梅木田遺跡	-	1	鎌倉～室町前半
長崎	田川遺跡	-	1	室町
大阪	摂津高槻城遺跡	-	3	戦国～江戸初期
福岡	波多江遺跡	-	1	戦国～江戸初期
福岡	宗玄寺跡	-	1	戦国～江戸初期
熊本	古麓城跡	-	1	戦国～江戸初期
宮崎	紙屋城址遺跡	-	2	戦国～江戸初期
茨城	鉢形地区桑里遺跡	-	1	江戸初期以降
宮崎	天神遺跡	-	2	江戸
東京	天童寺跡	-	1	江戸後半～明治
東京	四谷二丁目遺跡II	-	1	江戸後半～明治
神奈川	真田・北金目遺跡	-	3	不明
山梨	中央市上窪遺跡	-	1	-

※ 細掛け以外は(伊藤・山田2012)による

---

鹿児島県立埋蔵文化財センター

研究紀要・年報 **縄文の森から** 第17号

※なお、本研究紀要は査読誌です

発行年月 2024年12月

編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811

E-mail [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)

URL <https://www.jomon-no-mori.jp>

印刷 有限会社 国分新生社印刷

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久627-1

---